

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600265		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	グループホーム ゆうとび庵西神戸		
所在地	神戸市長田区長尾町2丁目13-14 (電話:078-646-9555)		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】 (19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年 6月 15日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	31 人	常勤19人, 非常勤13人, 常勤換算	27.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート(R.C)造り		
	4階建ての	1~4階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	36 名	男性	8 名	女性	28 名
要介護1	6	要介護2	13		
要介護3	10	要介護4	3		
要介護5	4	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸朝日病院・内田歯科医院・新長田クリニック・荻原みさき病院
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に、社員寮を改装して作られた兵庫県下最大の4ユニットのホームである。開設当初より地域との交流が盛んであり、地元根付いたホームでもある。市との情報交換も出来ている。医療面では医師の協力体制も整っており終末期ケアも行われている。職員一人ひとりが「よりよい介護とは何か」を常に考え、場面やその人に合わせ、今のケアに満足せず向上する意識があり、理念を念頭に入れケアの実践が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>外部評価結果を基にユニット長を中心に話し合い、改善策を検討する仕組みがある。食事はホームで職員や入居者が一緒になって調理する形に変更し、より温かい物を提供するなど五感の刺激も意識している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4)</p> <p>外部評価の改善項目リストを基にユニット長を中心に話し合いがなされており、改善策が検討されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議は利用者や家族・住民代表・あんしんすこやかセンター・施設代表者などの参加により2ヶ月に一度実施されている。話題もり八ビリや身体拘束・学校との交流や着取り・事故報告など様々な面から取り上げられており、内容は充実している。地域の意向を出来るだけ出ししてもらえるよう努力している。市や区の担当者とは頻りに連携を取っており、疑問点や質問等の解消に取り組みケア向上につなげている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>面会時には職員から家族に声をかけ日常の様子を伝え、意見や苦情を聞くようにしている。苦情や意見が言いやすいよう意見箱を設置したり、ホーム長の携帯電話をオープンにしており直接意見が言えるようにしている。家族からの意見はミーティングで話し合われ、対応できる体制が出来ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>日頃より職員が中心となって挨拶を交わし、地域の祭りや自治会行事などに参加している。近隣の美容院や買い物に行く商店などとの交流もある。地域の事業所・民生委員の会合には参加、地域住民や民生委員から日常的に介護相談もあり、理解もされている。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[より良い介護]「感動のある介護」を理念として掲げ、職員一人ひとりが場面目標を決め、現在の介護で満足せず、更なる向上を目指しフロアごとに年間の目標も立て実行に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ミーティングで職員も確認しており、入居者にとって何が大切かを常に考え意識しながらケアを行っている。毎月のマネージャーミーティング・フロアミーティングにおいて繰り返し理念を確認されており、職員に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃より職員が中心となって挨拶を交わし、地域の祭りや自治会行事などに参加している。近隣の美容院や買い物に行く商店などとの交流もある。地域の事業所・民生委員の会合には参加、地域住民や民生委員から日常的に介護相談もあり、理解もされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の改善項目リストを基にユニット長を中心に話し合いがなされており、改善策が検討されている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は利用者や家族・住民代表・あんしんすこやかセンター・施設代表者などの参加により2ヶ月に一度実施されている。話題もりハビリや身体拘束・学校との交流・看取り・事故報告など様々な面から取り上げられており、内容は充実している。地域の意向を出来るだけ出してもらえるよう努力している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の担当者とは頻繁に連携を取っており、情報を共有している。介護保険課に相談もしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には職員から家族に声をかけ日常の様子を伝えている。毎月、ゆうとび庵通信と共に入居者の近況や写真を郵送し入居者の暮らしぶりも伝えている。家族会も開催されており、家族同士が交流でき、意見を出し合う機会となっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見が言いやすいよう意見箱を設置している。またホーム長の携帯電話をオープンにしており直接意見が言えるようにしている。重要事項説明書にも施設と公的相談窓口の案内もしている。家族からの意見はミーティングで話し合わせ、対応できる体制が出来ている。家族にも説明し、必要時介護保険課にも報告する仕組みがある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限になるよう取り組んでいる。入居者の状態を把握し、ケアに生かすため意図的にユニット間の異動を行なう事があるが、入居者が混乱を来さないよう注意を払っている。家族にも必要に応じて説明しており、理解してもらっている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やリーダー研修などの外部研修に参加している。内部研修として医療研修や講演会への参加などの機会がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の民生委員・医師会・施設関係者が参加する地域の事業所連絡会に参加し、交流している。また、他施設の見学や講演会・病院の勉強会にも参加し、サービスの向上が出来るよう体制作りがなされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の見学や相談はいつでも受け入れている。相談から入居までは自宅での面会を何度も繰り返しながら、現場でケアに当たる職員も同行し、馴染みの関係を作りながらスムーズに入居出来るよう配慮している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊厳を大切にし、入居者の立場に立って考えられるよう意識している。入居者自身が得意な事を職員と一緒に支えたり、教えてもらう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に生活歴や本人及び家族の意向を個別に聞き、日中のスケジュールに取り込んでいる。意思疎通が困難な場合でも、家族からの情報を基に日頃より希望の表出が出来る機会を作り、非言語コミュニケーションを大切にし意向を汲み取るよう努力している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全社協在宅版ケアプラン作成様式を用いて入居者や家族から入居前の様子や意見を聞き、介護計画が立案できている。月1回は職員全体でミーティングを行い情報を共有化し、意見を出せるような体制が取られている。医師の参加による医療会議を持ち介護計画立案に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月を基本にケアプランの見直しを行い、状態変化時は随時見直しが行なわれている。本人や家族と話し合う機会を持ち、月1回職員ミーティングを行い、本人や家族の意見を介護計画に反映させている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制は取れている。入居相談や介護相談には応じており、馴染みの関係を築き、柔軟な対応ができるよう努力している。入居者が重症化した場合に訪問看護を利用し出来る限り入院が回避できるよう支援している。また、入院中の洗濯などの支援も行っている。外出支援も柔軟に個別対応している。ホーム長の携帯電話番号をオープンにし、家族が気軽に相談や要望が言える体制が整えられている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者や家族の意向を聞き、本人・家族が希望する医師による医療が受けられるよう支援している。家族と相談しながら、職員が通院介助をしている。受診時は、家族に受診内容の報告も電話などで行なっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合の対応に関する指針」「看取りに関する指針」として運営規定の中に明記されている。入居時に入居者や家族に説明すると共に、必要時は状況に合わせ何度も説明や意思確認を行い、方針を確認している。家族会や運営推進会議でも話し合う機会を持っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>建物の構造上、利用者の安全確保のためモニターカメラが設置してあり、個人情報の観点からも入居者や家族に書面で説明し、同意を得ている。職員間でも個人情報の取り扱いやプライバシー保護については話し合われており、ケアにも活かされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの習慣や希望されることを最優先にし、日々の外出などご利用者のペースで生活できるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の能力にあわせ調理や味見・配膳・後片付け・テーブル拭きなど自発的に役割が出来ている。行事の際には買い物に行つて作る機会もある。季節のものを取り入れ、暖かいものを提供するなど五感刺激への配慮がなされ、ゆったりと会話をしながら楽しく食事が出来る雰囲気作りが出来ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間の規定は設けず、入居者の希望にあわせて行なうようにしている。入浴拒否が続かないよう声かけし、清潔が保てるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や残存能力にあわせ、洗濯物たたみやベランダでの園芸・食器拭き等役割が持てるよう配慮している。囲碁や将棋・ゲームなどを楽しんでいる入居者も見られた。誕生会など季節の行事も入居者と職員が一緒になって考え、企画している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物にも出掛けている。入居者の意向を日頃のケアの中から把握し意向に沿って、その日にでも職員同行し外出支援するよう体制が整えられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の構造上、安全性を重視し、階段に通じる廊下には、腰までの高さの柵がある。また、玄関も施錠されているが、センサーを取り付け外出希望を確認・開錠し閉鎖感がないよう工夫されている。鍵をかけることに対するデメリットを正しく認識し問題意識を持ち検討課題とされている。		施設の構造上、すぐには解決できない事でもあるが、職員間で鍵をかけることの弊害を繰り返し話し合い、改善できる方法を検討する機会は持つよう期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回は必ず行っており、昼夜の想定訓練も行っている。防災マニュアルや防火管理表も作り、職員間でも意識付けとなるよう工夫している。日頃より地域の方との交流があり、運営推進会議などでも防災に関する内容も話題に挙げられている。地域の方が参加した形での避難訓練は出来ていないが、ホーム長は長期課題として認識している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>	<p>食事量や水分摂取量もチェックし、必要時は 強制にならないよう配慮しながら勧めてい る。季節のものを取り入れたり、身体状況に 合わせた食事の形状に配慮するなど、工夫をし ている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者との共同作品などを掲示している。各 フロアのリビングの雰囲気を活かし、ソ ファーが置かれ入居者が思い思いの場所で時 間が過せるように工夫されている。トイレや 浴室まで色を変えてテープを引き、間違い防 止のための工夫も出来ている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 こせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具やベッド・鏡台など を持ち込まれている。畳とベッドは入居者が 選べるようにしており、家具の配置や装飾な どは入居者と相談して決め、落ち着いて過 せる空間作りを支援している。</p>		

は、重点項目。